

城東の早春

楊巨源

詩家の清景新春在り

柳嫩鶯黄色未だ勻わらず

若上林の花錦に似たるを待たば

門出ざるに皆是れ花を見るなり

【作者】楊巨源(七七〇〜?年)・中国,中唐の詩人。蒲中(山西省蒲県)の人。字,景山。七八九年進士に及第。国子司業にまで進んで八四〇年

頃官を辞した。白居易,元じんと交遊があり,その詩は声律に意を用いた作品が多い。作品の代表作は「折楊柳」であろう。

【語釈】*城東…市街地の東側であるが,ここでは長安城東であろう。*嫩(やわらか)…若く柔らか。*鶯黄…鶯鳥の雛の黄色をもつて柳の新

芽のいろに比している。*未勻…整わないこと。*上林…広く天子の御苑。

【通釈】詩人が愛する清らかな春の風景は何といつても早春の頃。柳の新芽がまだ鶯鳥の雛のような黄色を帯て色もまだ整わない。もしも上林苑の花が錦ように咲き誇るまで待てば,門を出る人々があふれ,すべての人が花見客なのだから,自然を楽しんではいられない。